

文芸書



星を掬う
町田 そのこ/著
千鶴が夫から逃げるために向かった「さざめきハイツ」には、自分を捨てた母・聖子がいた。他の同居人は、娘に捨てられた彩子と、聖子を「母」と呼び慕う恵真。4人の共同生活は、思わぬ気づきと変化を迎え…。

- 子供は怖い夢を見る
- 居酒屋「一服亭」の四季
- 邯鄲の島遥かなり 中
- ショートショートドロップス
- オリンピックにふれる
- 7.5グラムの奇跡
- 北緯43度のコールドケース
- ルパンの絆
- あかずの扉の鍵貸します
- N
- 舞風のごとく
- ミカエルの鼓動
- 氷柱の声
- 翼の翼
- 三国志名臣列伝 魏篇
- 二十一時の渋谷で
- トラペジウム
- 重力ピエロ(新潮文庫)
- 砂に埋もれる犬
- ボーダーライト
- 夜が明ける
- 黒死館殺人事件
- ペッパーズ・ゴースト
- 山・原野・牧場 ある牧場の生活
- 歴史というもの
- 九十歳 わたしの暮らしがた
- さよなら、ながいくん。
- あのころなにしてた?

- 宇佐美まこと
- 東川篤哉
- 貫井徳郎
- 新井素子/編
- 吉田修一
- 砥上裕将
- 伏尾美紀
- 横関 大
- 大谷 瑞恵
- 道尾秀介
- あさのあつこ
- 柚月裕子
- くどうれいん
- 朝比奈あすか
- 宮城谷昌光
- 古内一絵
- 高山一実
- 伊坂幸太郎
- 桐野夏生
- 今野 敏
- 西加奈子
- 小栗虫太郎
- 伊坂幸太郎
- 坂本直行
- 井上 靖
- 曾野綾子
- 川上弘美
- 綿矢りさ

一般書・児童書



藤井聡太天才の育て方
プレジデントFamily編集部/編



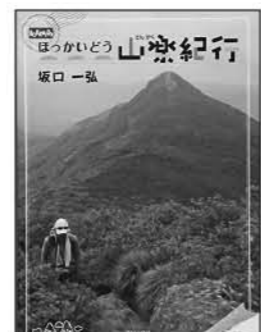
水俣天地への祈り
田口 ランディ/著



デジタル遺品の探しかた・
しまいかた、残しかた+隠しかた
伊勢田 篤史/著



きのう何食べた?
〜シロさんの簡単レシピ2〜
講談社/編



ほっかいどう山楽紀行
坂口 一弘/著



大人めがねスタイル
主婦の友社/編



長くつ下のピッピ
アストリッド・リンドグレン/さく



星のカービィまちがいさがし
ワプスター/監修

上士幌町図書館ブログでも入荷情報をご案内しています。
<https://horonlibrary.blogspot.com/>



【12月の休館日】6・13・20・27・30・31日 ※30日(木)は月末休館日です

かみしほろ
としよかんたより

BanBan & LunLun

上士幌町図書館 生涯学習センター1階 ☎2-4634

◆開館時間 10:00~18:00 貸出制限なし(ただしDVDは3タイトルまで)
◆休館日 毎週月曜日・月末日(最後の平日)・年末年始(12月30日~1月5日)

図書館名画座「我が道を往く」

タイトルがあまりに有名ですね。名歌手ピング・クロスビーは映画でも大活躍しました。彼に続いたのが、シナトラやプレスリーとなります。劇中に流れる「アイルランドの子守歌」を視聴覚ホール映像と音響でお楽しみ下さい。

★日 時 12月11日(土) 14時開始 上映時間126分
★場 所 生涯学習センター2階 視聴覚ホール
★主 演 ピング・クロスビー

数多く取り揃えています
年末年始に役立つ実用書

12月になるとご家庭では、大掃除に年賀状、お正月を迎える準備など、これから年の瀬に向けてお忙しくなるのではないのでしょうか。図書館では、この時期に役立つ本も多数取り揃えています。清々しい新年を迎えるために、どうぞご活用ください。

としよかん最年長利用者は?

現在の図書館の最年長利用者は、今年で96歳になる菅原栄治さんです。菅原さんは平成3年の開館当時から図書館を利用されています。当初は車で来館されていましたが、3年前に免許返納を済ませ、今は福祉バスで図書館に通われています。

現在も読書欲は旺盛です。その秘密は、いつまでも好奇心を失わない心の若さと、何より小さな活字の本まで読むことができる視力にありそうです。どうかお元気で、これからも読書を楽しんで下さい。

クリスマスツリーを飾りつけ

12月11日のお話会の後、クリスマスの飾りつけを行います。目玉は毎年登場する、手作りの大きなクリスマスツリーです。このツリーに、みんなで素敵な飾りつけを行いませんか。ぜひ皆さんで参加ください。

ようこそおはなしの世界へ

★お話会
◆日 時 12月11日(土) 10:30~
◆内 容 お話会「カッコウ」による絵本の読み聞かせ・紙芝居・パネルシアター等

★えほんのトビラ
◆日 時 12月18日(土) 10:30~
◆内 容 図書館職員による絵本の読み聞かせ
※マスクを着用してご参加ください

※会場は両日とも図書館お話の部屋です。

未来を創る。
笹木 卓三

創未来を

著者は、この春まで町教委で教育専門員を務められた笹木先生です。ご存知の方も多いと思いますが、先生は生まれも育ちも三股で、生粋の上士幌人です。

若い頃には糠平小に勤務した経験もあります。その後は帯広市内の小中学校で教鞭をとられましたが、特筆すべきは南米ペルーのリマ日本人学校での経験です。フジモリ大統領時代の事です。政情不安定な状況下、厳戒令が敷かれ、学校も休校。日常生活にも不自由する体験に日本との違いに驚きながらも、それが日常であることを認識し順応します。

この本は7章からなり、第1章「子育てを考える」第2章「成長を考える」は、2019年に十勝毎日新聞で連載されたものです。

読後、我慢が自立への鍵であるという言葉が心に残りました。しかし、今の世相では随分と難しいことかもしれません。また挨拶のことも同様です。先生は挨拶とは「相手を認めること」と説明しています。しかし、「あつ、今認められた」と実感することが日常的に少なくなっていないでしょうか。